

議案第 26 号

石岡市職員の勤務時間，休暇等に関する条例及び石岡市職員の
育児休業等に関する条例の一部を改正する条例を制定すること
について

石岡市職員の勤務時間，休暇等に関する条例及び石岡市職員の育児休業等
に関する条例の一部を改正する条例を制定することについて，地方自治法
（昭和 22 年法律第 67 号）第 96 条第 1 項第 1 号の規定により議会の議決
を求める。

令和 8 年 2 月 24 日 提 出

石岡市長 谷 島 洋 司

提 案 理 由

育児休業，介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律
及び次世代育成支援対策推進法の一部改正並びに地方公務員の育児休業等
に関する法律の一部改正に伴い，所要の改正をするため。

石岡市職員の勤務時間，休暇等に関する条例及び石岡市職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例

（石岡市職員の勤務時間，休暇等に関する条例の一部改正）

第1条 石岡市職員の勤務時間，休暇等に関する条例（平成17年石岡市条例第45号）の一部を次のように改正する。

第8条の3第2項中「3歳に満たない子」を「小学校就学の始期に達するまでの子」に改め，同条第4項中「第1項及び前項」を「前3項」に，「以下この項において「要介護者」という。」を「以下「要介護者」という。」に，「養育」とあるのは」を「養育」とあり，並びに第2項及び前項中「小学校就学の始期に達するまでの子のある職員が，市規則で定めるところにより，当該子を養育」とあるのは，」に，「「深夜における」」を「第1項中「深夜における」」に，「前項中「小学校就学の始期に達するまでの子のある職員（職員の配偶者で当該子の親であるものが，常態として当該子を養育することができるものとして市規則で定める者に該当する場合における当該職員を除く。以下この項において同じ。）が，市規則で定めるところにより，当該子を養育」とあるのは「要介護者のある職員（ただし，市規則で定める者に該当する場合における当該職員を除く。以下この項において同じ。）が，市規則で定めるところにより，当該要介護者を介護」」を「第2項中「当該請求をした職員の業務を処理するための措置を講ずることが著しく困難である」とあるのは「公務の運営に支障がある」」に改める。

第15条中「その他市規則で定める者」の次に「（第17条の3第1項において「配偶者等」という。）」を加える。

第17条の次に次の3条を加える。

（妊娠，出産等についての申出をした職員等に対する意向確認等）

第17条の2 任命権者は，石岡市職員の育児休業等に関する条例（平成17年条例第46号）第21条第1項の措置を講ずるに当たっては，同条の規定による申出をした職員（以下この項において「申出職員」という。）に対して，次に掲げる措置を講じなければならない。

- (1) 申出職員の仕事と育児との両立に資する制度又は措置（次号において「出生時両立支援制度等」という。）その他の事項を知らせるための措置
 - (2) 出生時両立支援制度等の請求，申告又は申出（以下「請求等」という。）に係る申出職員の意向を確認するための措置
 - (3) 石岡市職員の育児休業等に関する条例第21条の規定による申出に係る子の心身の状況又は育児に関する申出職員の家庭の状況に起因して当該子の出生の日以後に発生し，又は発生することが予想される職業生活と家庭生活との両立の支障となる事情の改善に資する事項に係る申出職員の意向を確認するための措置
- 2 任命権者は，3歳に満たない子を養育する職員（以下この項において「対象職員」という。）に対して，市規則で定める期間内に，次に掲げる措置を講じなければならない。
- (1) 対象職員の仕事と育児との両立に資する制度又は措置（次号において「育児期両立支援制度等」という。）その他の事項を知らせるための措置
 - (2) 育児期両立支援制度等の請求等に係る対象職員の意向を確認するための措置
 - (3) 対象職員の3歳に満たない子の心身の状況又は育児に関する対象職員の家庭の状況に起因して発生し，又は発生することが予想される職業生活と家庭生活との両立の支障となる事情の改善に資する事項に係る対象職員の意向を確認するための措置
- 3 任命権者は，第1項第3号又は前項第3号の規定により意向を確認した事項の取扱いに当たっては，当該意向に配慮しなければならない。
- （配偶者等が介護を必要とする状況に至った職員等に対する意向確認等）
- 第17条の3 任命権者は，職員が配偶者等が当該職員の介護を必要とする状況に至ったことを申し出たときは，当該職員に対して，仕事と介護との両立に資する制度又は措置（以下この条及び次条において「介護両立支援制度等」という。）その他の事項を知らせるとともに，介護両立支

援制度等の請求等に係る当該職員の意向を確認するための面談その他の措置を講じなければならない。

- 2 任命権者は、職員に対して、当該職員が40歳に達した日の属する年度（4月1日から翌年の3月31日までをいう。）において、前項に規定する事項を知らせなければならない。

（勤務環境の整備に関する措置）

第17条の4 任命権者は、介護両立支援制度等の請求等が円滑に行われるようにするため、次に掲げる措置を講じなければならない。

- (1) 職員に対する介護両立支援制度等に係る研修の実施
 - (2) 介護両立支援制度等に関する相談体制の整備
 - (3) その他介護両立支援制度等に係る勤務環境の整備に関する措置
- （石岡市職員の育児休業等に関する条例の一部改正）

第2条 石岡市職員の育児休業等に関する条例（平成17年石岡市条例第46号）の一部を次のように改正する。

第1条中「第19条第1項及び第2項」を「第19条第1項から第3項まで及び第5項」に改める。

第2条第4号ア(ア)中「第2条の3第3号において」を「以下」に改め、同号ア(イ)中「規則」を「市規則」に改め、同号イ(ア)中「該当して子の」を「該当して当該子の」に改める。

第2条の2中「児童福祉法（昭和22年法律第164号）第6条の4第2項」を「児童福祉法（昭和22年法律第164号）第6条の4第1号」に、「同法第6条の4第1項」を「同法第6条の4第2号」に、「里親であって養子縁組によって養親となることを希望している者」を「養子縁組里親」に改める。

第2条の3第3号ウ中「規則」を「市規則」に改める。

第2条の4中「次条第7項」を「次条第7号」に、「規則」を「市規則」に改める。

第3条中「育児休業法第2条第1項」を「育児休業法第2条第1項ただし書」に改める。

第17条第2号中「及び勤務日ごとの勤務時間」を削り、「規則」を「市

規則」に改める。

第18条の見出し中「部分休業」を「第1号部分休業」に改め、同条第1項中「部分休業（育児休業法第19条第1項に規定する部分休業をいう。以下同じ。）の承認は、勤務時間条例第2条第1項に規定する正規の勤務時間（会計年度任用職員にあつては、当該会計年度任用職員について定められた勤務時間）の始め又は終わりにおいて」を「育児休業法第19条第2項第1号に掲げる範囲内で請求する同条第1項に規定する部分休業（以下「第1号部分休業」という。）の承認は」に改め、同条第2項中「部分休業」を「第1号部分休業」に改め、同条第3項中「部分休業」を「第1号部分休業」に、「第61条第32項において読み替えて準用する同条第29項」を「第61条の2第20項」に改める。

第18条の次に次の4条を加える。

（第2号部分休業の承認）

第18条の2 育児休業法第19条第2項第2号に掲げる範囲内で請求する同条第1項に規定する部分休業（以下「第2号部分休業」という。）の承認は、1時間を単位として行うものとする。ただし、次の各号に掲げる場合にあっては、それぞれ当該各号に定める時間数の第2号部分休業を承認することができる。

- (1) 1回の勤務に係る日ごとの勤務時間に分を単位とした時間がある場合であつて、当該勤務時間の全てについて承認の請求があつたとき
当該勤務時間の時間数
- (2) 第2号部分休業の残時間数に1時間未満の端数がある場合であつて、当該残時間数の全てについて承認の請求があつたとき
当該残時間数
(育児休業法第19条第2項の条例で定める1年の期間)

第18条の3 育児休業法第19条第2項の条例で定める1年の期間は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

（育児休業法第19条第2項第2号の人事院規則で定める時間を基準として条例で定める場合）

第18条の4 育児休業法第19条第2項第2号の人事院規則で定める時間を基準として条例で定める時間は、次の各号に掲げる職員の区分に応じ、

当該各号に定める時間とする。

- (1) 会計年度任用職員以外の職員 77時間30分
- (2) 会計年度任用職員 当該会計年度任用職員の勤務日1日当たりの勤務時間数に10を乗じて得た時間

(育児休業法第19条第3項の条例で定める特別の事情)

第18条の5 育児休業法第19条第3項の条例で定める特別の事情は、配偶者が負傷又は疾病により入院したこと、配偶者と別居したことその他の同条第2項の規定による申出時に予測することができなかった事実が生じたことにより同条第3項の規定による変更（以下「第3項変更」という。）をしなければ同項の職員の小学校就学の始期に達するまでの子の養育に著しい支障が生じると任命権者が認める事情とする。

第19条第1項中「を除く。）」の次に「育児休業法第19条第1項に規定する」を加える。

第20条を次のように改める。

(部分休業の承認の取消事由)

第20条 育児休業法第19条第6項において準用する育児休業法第5条第2項の条例で定める事由は、職員が第3項変更をしたときとする。

附 則

この条例は、令和8年4月1日から施行する。